

古式伝統を脈々と受け継ぐ式典

春季積菜

今年も多久聖廟で厳かに開催

孔子と四配（顔子・曾子・子思子・孟子）の遺徳を讃える春季積菜が、心地よい春の陽射しの中、4月18日に多久聖廟で厳かに執り行われました。

この日は県内外から多くの見物客が訪れ、多久の春の風物詩を堪能していました。



伶人に扮する市職員が奏でる、雅で趣のある雅楽の音色が響き渡る中、献官を務める横尾市長と祭官を務める山本市議会議長、中川教育長、小中一貫校3校の校長らが、孔子様と四配の像に甘酒、餅などのお供え物を奉納しました。

また、県内外から献上された漢詩を祝者が読み上げました。

儀式を終えると聖廟境内では、色鮮やかな衣装をまとった多久高校生徒と西溪校生徒による「積菜の舞」が披露され、来場者を魅了していました。

また、西溪校児童1年生から5年生と多久町老人クラブによる「参列生徒の唱歌」。仰高門の前では、西溪校児童による「腰鼓」が披露され、躍動感あふれる太鼓の舞を披露しました。



▲積菜の舞



▲聖廟境内で整列する献官と祭官



▲祭官から孔子像に献上する露を洗い浄める献官の横尾市長

▼雅楽を奏でる伶人



▶上田昌子さんご家族（長崎市イギリスから長崎市の実家に里帰り中のスミス上田晃子さん。「一度見たいとずっと思っていました。厳かで、艶やかで、華やかに満足しました」と笑顔で大満足



▲参列生徒の唱歌

▶野口正利さん康子さん夫妻（福岡市）「10年くらい前から毎年献詩しています。積菜には毎回楽しみに来ています」と聖廟ファンの康子さん



市長コラム

温故創新

Message for citizen

積菜と統一地方選挙を越えて

市長 横尾俊彦

桜花春風に舞い、新緑輝く季節になりました。聖廟積菜もみごとな好天に恵まれて、厳かに、そして滞りなく挙行できました。春と秋の積菜では改めて創建の原点を思い、茂文公の初志を感じる瞬間があります。

祭典前には心身を整えて祭事に臨むようにという慣習がありますので、自分なりに毎回孔子ゆかりの書物を繙くようにしています。今回は孔子七十七代ご子孫・孔徳懋先生の『孔家秘話』（大修館書店）を読み進みました。孔子から始まる先人の並々ならぬ苦勞を垣間見ながら、こんな苦難もあつたのかと歴史の厚みを教えられました。

そして4月は統一地方選挙の月でした。佐賀県議会議員選挙、多久市議会議員選挙が行われました。市議選は昭和29年の市制施行以来の初の無投票でした。たしかに全国的に増えている無投票の傾向ですが、市民のみならず、これに注目され、新たな関心と問題意識をもたれたようです。

「地方議会の存在意義は」「どんな役割や責任があるのか」「議員定数の考え方」「報酬・政務調査費のあり方」「人口比から見ると定数減を」「定数と同数の立候補なら定数を減らしてよいのでは」「対立ばかりでなく建設的提案をする議会であるべき」「若い世代も挑める環境整備」などです。

今月12日には臨時市議会が開かれ、議長等を決める協議が行われますが、市議会にはそのような熱論の期待が集まる気運が強いようです。暖かくなりますが、健康には十分にご留意を。